

# ほんしめじ「福島 H106 号」 の発生量は新培地により大幅に増加できる

福島県林業研究センター 林産資源部

部門名 林業—食用キノコ—栽培方法

担当者 長谷川孝則

## I 新技術の解説

### 1 要旨

福島県林業研究センターでは、一般きのこ生産者向けにほんしめじ自然栽培技術の開発に取り組んできた。これまでに 5,000 円/kg 相当の販売単価が確保できるのであれば、ある程度の収益を見込めることを確認していたが、収益を向上させるためには、さらなる発生量の増加が必要であった。今回新たに開発したチップ培地を用いて比較検討を行ったところ、当該培地は収量・発生本数ともに既存培地を大きく上回ることを確認した。

- (1) 組成の異なる 3 種類の培地 (表 1) について、3 期間の日数 (90 日・120 日・140 日) を設定して培養を行ったところ、140 日培養チップ培地の収量が最も多いという結果が得られた (図 2・3)。
- (2) 140 日培養チップ培地は、既存培地である日向土(基準)培地 (90 日培養) に対し、収量・発生本数ともに 1.7 倍 (収量 173% 発生本数 166%) であった (図 4・5)。
- (3) 140 日培養チップ培地 1 ビン当たりの値は、発生量が 174g、発生本数が 5.3 本、子実体重量が 33g であった (※1 コンテナ当たり数量 (9 ビン/コンテナ) を割り戻して算出)。

### 2 期待される効果

- (1) これまで以上の収量増が実現されることで生産者所得の向上が可能となる。

### 3 適用範囲

- (1) 県内きのこ生産者

### 4 普及上の留意点

- (1) 統計的な差異はないため、120 日培養チップ培地でも同様の傾向を示すと考えられる。
- (2) 発生操作時期の見極めなど、指導にもとづいた適切な管理が必要である。
- (3) 現時点では種菌が販売されていないため、栽培するには培地を入手する必要がある。(現在、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会が供給している)。

## II 具体的データ

表1 培地別組成及び配合比

培地種別	配合比 (容量比)
日向土(基準)培地	日向土(中粒)：パーミキュライト：押麦＝ 12:1:4
日向土(置換)培地	日向土(中粒)：フスマ：押麦＝ 12:1:4
チップ培地	広葉樹チップ：フスマ：押麦＝ 10:1:4

使用容器：フィルターキャップ付き 1,400ccPPビン

培地充填量：容器肩口下まで(日向土培地概ね 900g、チップ培地概ね 700g)

培地の名称：日向土(基準)培地→これまで使用してきた培地

日向土(置換)培地→パーミキュライトをフスマに置き換えた培地



図1 ほんしめじ「福島 H106 号」

① \*\*: $P < 0.01$  及び\*: $P < 0.05$  は、ともに有意な差があることを、n.s.は差が認められないことを意味しています。 ② エラーバーは標準偏差を表しています。

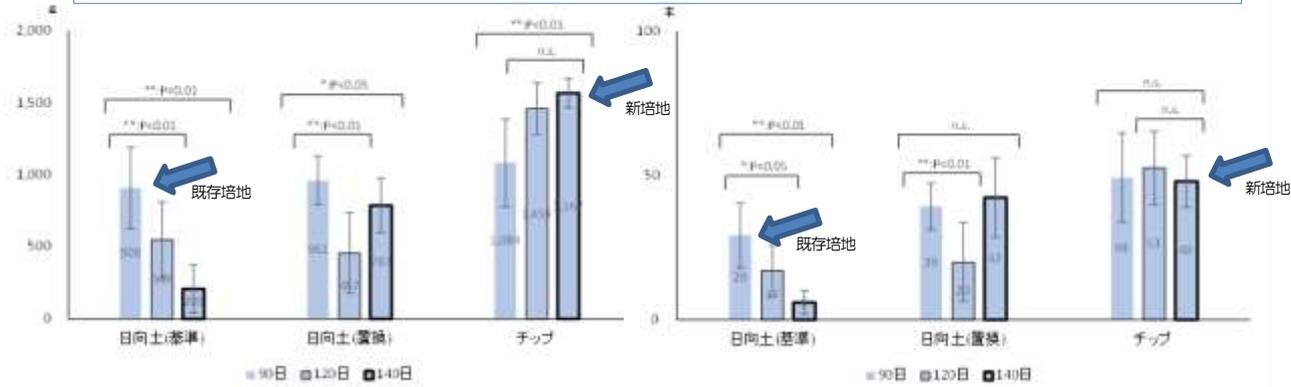


図2 培地種類別1コンテナ当たり収量 (※9ビン/コンテナ)

図3 培地種類別1コンテナ当たり発生本数 (※9ビン/コンテナ)

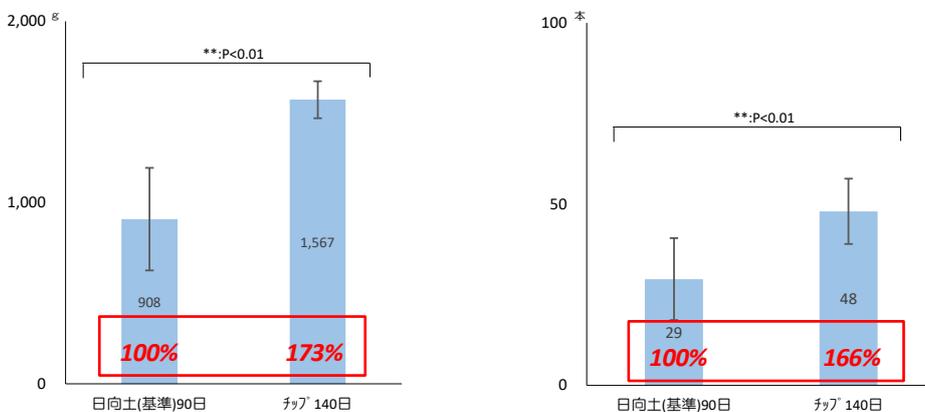


図4 新旧培地別1コンテナ当たり収量 (※9ビン/コンテナ)

図5 新旧培地別1コンテナ当たり発生本数 (※9ビン/コンテナ)

【低コスト化について】  
1 培地当たり原材料費を約2割低減

## III その他

### 1 執筆者

長谷川孝則

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成27～令和2年度

(2) 研究課題名 県産きのこの優良品種選抜と機能性の解明

### 3 主な参考文献・資料

特になし